

長野県文化財保護審議会への諮問について（案）

文化財・生涯学習課

下記の文化財を長野県宝に指定し、及び長野県天然記念物の指定を解除をしたいので、文化財保護条例（昭和 50 年長野県条例第 44 号）第 4 条第 3 項及び第 31 条第 2 項の規定により、長野県文化財保護審議会に諮問するものとする。

記

1 長野県宝に指定する文化財

名 称	員数	所 在 地	所有者の住所及び氏名 又は 名 称
きゅうねんらいじしょうろう 旧念来寺鐘楼	1 棟	松本市中央 4 丁目 1375 番 6	松本市中央 4 丁目 9 番 13 号 宗教法人 <small>みょうしょうじ</small> 妙勝寺

2 長野県天然記念物の指定を解除する文化財

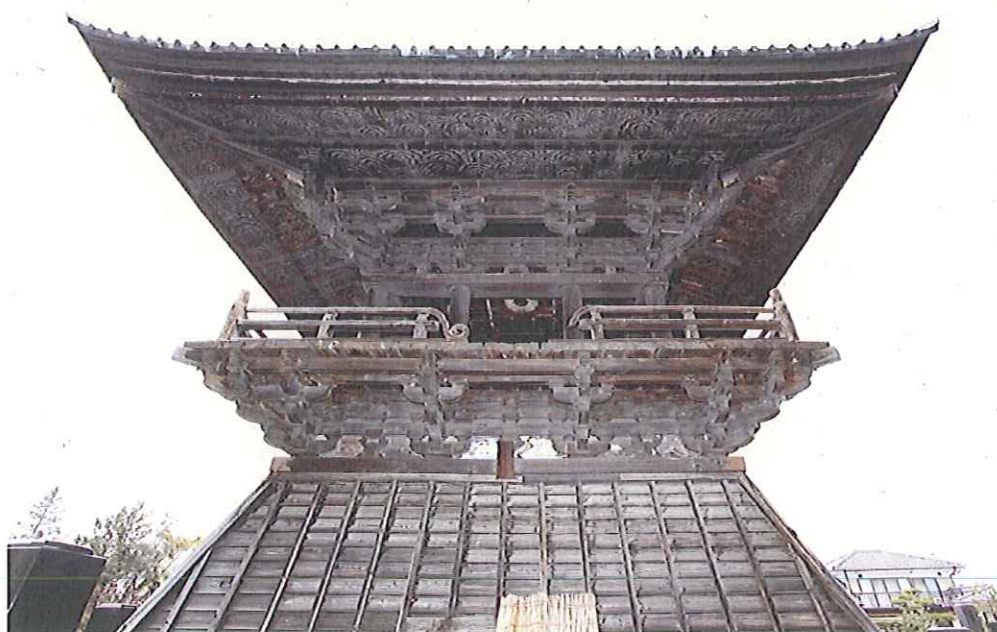
名 称	所 在 地	指 定 告 示
原のシダレザクラ	上水内郡信濃町大字平岡 994-1	昭和 42 年 5 月 22 日 長野県教育委員会告示第 4 号

諮 問 物 件 の 概 要

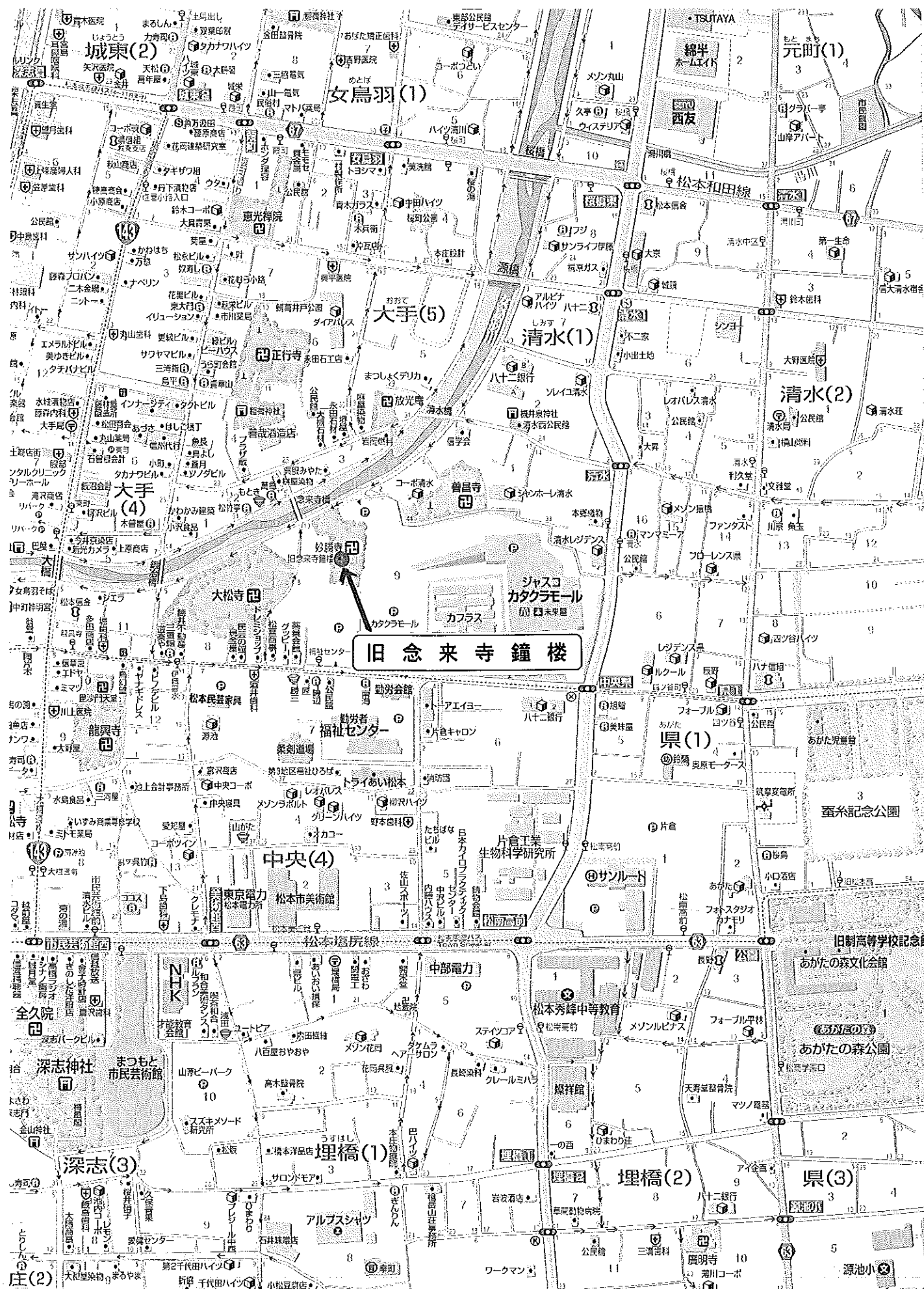
名 称・員 数	きゅうねんらいじ しょうろう 旧念来寺鐘楼 1棟
所 在 地	松本市中央四丁目 1375 番 6
所 有 者	みょうしょうじ 宗教法人 妙勝寺
年 代	宝永 2 年（1705 年）
構 造 形 式	はかまこしつきしょうろう 桁行三間、梁間二間、袴腰付鐘楼、入母屋造、銅板瓦葺
諮 問 理 由	<p>念来寺は、もくじき しょうがくちやうおんしょうにん げん な 木食僧唱岳長音上人により元和 5 年（1619）に開山された。開山にあたり松本藩主戸田氏から土地の寄進を受け、1800 坪の寺域を備えた大規模な寺院であった。もくじき 木食行とともに作仏行を行う天台宗もくじき 木食派の寺で檀家をもたなかったが、本尊阿弥陀如来（長音上人作仏）は「清水のおおほとけ の大仏」と呼ばれ、庶民の寺として信仰を集めた。明治 5 年（1872）、廃仏毀釈により、廃寺となり伽藍は破壊されたが、時の鐘を告げていた鐘楼のみが、その後も役割を果たすため破壊の難を免れた。</p> <p>本鐘楼が建築されたのは、棟木に記された墨書と上層天井中央にある方位盤に書かれた銘文から、宝永 2 年（1705）であることが明らかとなっている。</p> <p>桁行三間、梁間二間、下層ははかまこし 袴腰、上層はみてさきくみもの 三手先組物で周囲に縁を回し、高さは 12.67m、楼床の高さは 4.4m、軒下 7.67m と、鐘楼としては規模の大きなものである。軒は、垂木を用いず、全面に雲形の彫刻を施す彫刻板軒である。国内において、近世以前の彫刻板軒を用いた建築として知られるのは、千葉県成田市の重要文化財「しんしょうじ 新勝寺三重塔」（1712）など 24 件であるが、本鐘楼は現存するものとしては最も古いものである。また、組物に付けられたえようきばな 絵様木鼻、なかぞなえ 中備の蓑股、かえるまた 蓑束などにみられる形式は、江戸時代初期から中期のこの地方の特色を色濃く示している。</p> <p>旧念来寺鐘楼は、松本城下における廃仏毀釈による寺院破壊の事実を物語る建物であるとともに、江戸時代中期のこの地方の寺院建築の様子を今に伝えるものとして貴重である。</p>
指 定 基 準	<p>長野県宝等の指定等に関する基準</p> <p>第 1 長野県宝の指定基準</p> <p>（7）建造物</p> <p>（ウ）歴史上重要なもの</p> <p>（オ）流派的又は地域的特色において顕著なもの</p>

（参考）昭和 44 年 7 月 4 日 松本市有形文化財に指定

きゅうねんらいじしょうろう
旧念来寺鐘楼（松本市）



位置図



諮 問 物 件 の 概 要

名 称	原のシダレザクラ
所 在 地	長野県上水内郡信濃町大字平岡994-1
所有者の住所 および氏名	長野県上水内郡信濃町大字平岡1, 127 原組総代 伊澤 民雄
概 況 と 特 色	<p>樹種：枝垂れ桜 (<i>Prunus pendura f. pendura</i>)</p> <p>指定：昭和42年5月22日</p> <p>指定時の目通りは5.75m、樹高は約10mとの記録があり、二股に別れた主幹から饅頭形に枝垂れる樹姿の美しさと大きさ、樹勢の良さが評価されている。</p> <p>昭和61年頃、ネコブセンチュウが多数寄生し、防除と施肥が実施されたが、平成4年になって樹勢回復事業が計画された。同事業は平成5年から平成11年まで行われた。</p> <p>しかし、その後の樹勢も思わしくなく、樹木医の小山明氏による平成17年の診断にもとづき、翌平成18年から蘇生事業が始まった。同事業は、根元の土壌の入れ替えと不定根の誘導を主眼として行われたが、不定根の発根は思わしくなかった。</p> <p>この間も、樹勢維持のため保存会による花芽摘み等の手入れがこまめに行われ、樹木周辺の環境は好適に保たれていたが、平成23年の春には発芽しなかった。</p> <p>そこで平成23年5月20日、所有者、樹木医、文化財保護行政担当者らの立ち会いのもと、最後の樹勢診断が行われ、枯死が確認された。</p>
諮 問 理 由	当該樹はこれまでの樹勢衰退と、最終的な枯死により、指定要件である大きさ、樹姿の美しさ、樹勢の良さの全てが失われた。
解除の要件	<p>県史跡名勝天然記念物が県史跡名勝天然記念物としての価値を失ったときその他特殊の事由があるときは、その指定を解除することができる。</p> <p style="text-align: right;">（文化財保護条例第31条）</p>

（参考）指定告示 昭和42年5月22日

原のシダレザクラ（信濃町）



桜の木が
弱っていますので、
枝の下へ入らないで
ください。
信濃町教育委員会

位置図

